

九州産業大学

サービス拡充と安全性の高い情報基盤

九州産業大学の情報基盤は1万人以上の在籍者に対して様々な情報リソースを提供している。教務部、学生部、財務部等、それぞれの部署での運用のほか、各種教育用システムの稼働や、学生、教職員へのメールアドレスの提供、学内LAN利用のアクセスポイントを用意するなど、その内容と範囲は多岐に及んでいる。

多様なサービスの提供

学内には550台の情報端末を設置(教室、フリースペース等に設置)また、教育研究システムとして17教室、983台のPCが稼働し、用途もOSも異なる各種サーバが100台以上共用されている。Microsoft社のOffice製品群以外にも、クリエイティブワークに用いられるAdobeの各種製品もシステムに取り入れられていて、学内ネットワークに接続された端末であればアプリケーションを利用可能な環境が構築され、学生に広く提供されている。学内ネットワークには無線クライアントのアクセスポイン

トも多数設置されていて、スマートフォンやタブレットPC活用によるペーパーレス化にも対応している。多様なサービスを提供して学生の利便性向上を図るという現在の状況は、管理業務の効率化にはあり得ないものだろう。同校は学内の情報基盤を利用するアカウントを統合、一元管理することで、管理業務を大幅に省力化することに成功。学生、教職員はひとつのIDで様々なサービスを利用できるようになったのである。

統合以前の問題

統合以前の学内情報基盤でも様々なサービスを提供していたが、全情報資源を管理する総合情報基盤センターは学内ネットワークの整備とアカウント統合を実施。共用サービス部分のほとんどのアカウントを統合し運用することで、アカウントの発行、更新等管理業務の効率化を図った。それまで、アカウントは各サービスごとに発行され、アカウント情報、権限などもすべてサービスごとに管理され

ていた。公開するサービスが増えることで、アカウントの管理業務は煩雑なものになり、管理者にもある程度の専門性が要求されていた。そのような管理状況では、事務的、技術的な負荷が管理者に集中してしまう潜在的なリスクがあった。

管理の効率化

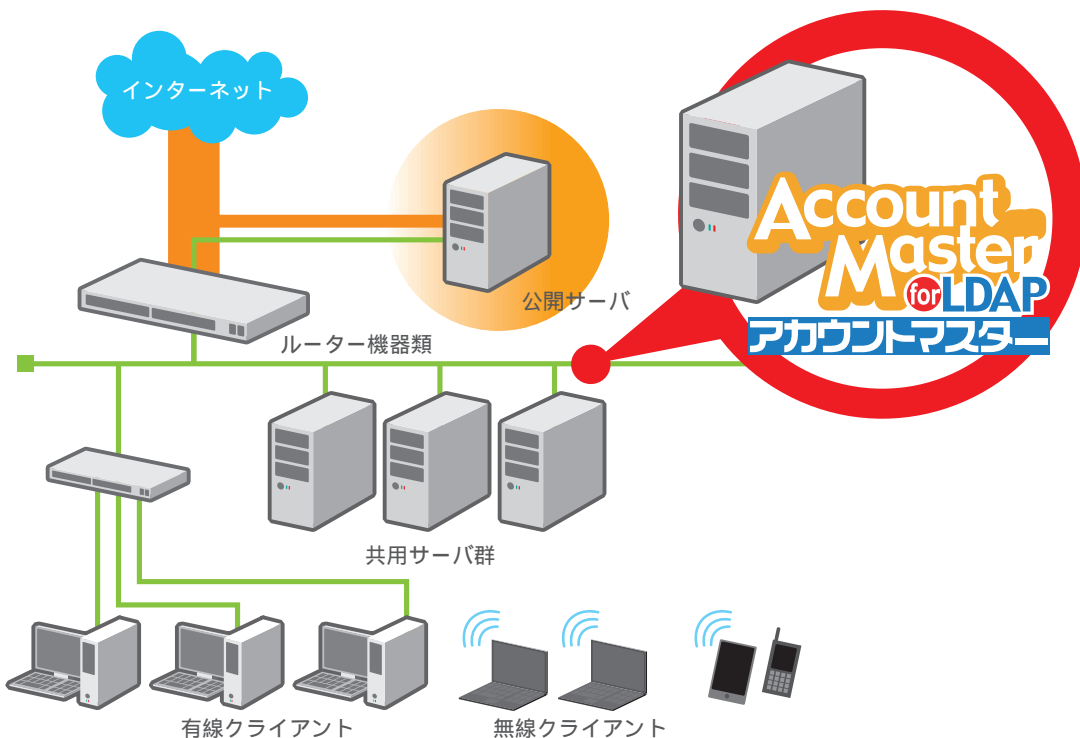
アカウント統合後、前述のように多様なサービスが公開され、学生、教職員の利便性は大幅に向上している。管理者にとっても、管理すべきアカウントが集約されたことで、作業負担、責任負担は軽減された。アカウントに関する操作は、『アカウントマスター for LDAP』のインターフェースを使ってWEBブラウザでの操作となる。権限その他のルール、ポリシーはあらかじめシステムに組み込まれているため、日常の管理業務からは、一切の専門性を排除することが可能になったのである。

認証の要となるアカウントマスター

この情報基盤構築を手がけたSCS株式会社九州支社(旧住商情報システム)は、各種アカウントを統合し一元管理するための仕組みとして『アカウントマスター for LDAP』を導入した。『アカウントマスター for LDAP』を認証管理に使うことにより、異なるシステムの認証、メールアカウントや教育用シンクライアントで使用されるアプリケーションのシリアル認証、各種証明書発行が一元的に実施でき、情報リソースをスムーズに提供することができるようになった。『アカウントマスター for LDAP』は、情報基盤の認証の要としての役割を担っているのである。

DATA (2011年5月)

学部数: 8学部
学生数: 11,506人
キャンパス数: 3
S事業者: SCS株式会社九州支社



構内に設置されたPCには、OSやアプリケーションの入っていないシンクライアントが設置されていますが、このようなマシンへのアプリ供給のための認証も統合アカウントで行われています。

持ち込み端末の学内ネットワーク接続も、ポータルサイトで統合アカウントを使用してログオンしています。

一部教職員のために、外部からのVPN接続も開放していますが、これらも厳格な権限管理によって安全に運営されています。

